

“ここで活動を続けてみんなの笑顔を見ることが、私の生きがいのひとつです”

“誕生日が2日違いの孫と一緒に誕生会をしています”

“新しい場所で新しい友人関係を作っていきたいです”

“写真は今でも撮り続けている。記録として残すっていうのは大事だなって思うもの”

“新居では片づけていたギターを再開したいと思っています”

“津波を受けた畑で今年から野菜作りを再開しました。野菜作りは天職ですから”

～2015年に聞き取りを行った際に語られた被災者の方々の言葉から～

仙台防災未来フォーラム関連行事

「未来に伝えるふるさとの記憶」

～わたしたちが語り継いでいく大切なこと～

日時

2016年3月6日(日)

13:30開演(13:00開場)

※15:45終了予定

内容

- 第1部(1)東六郷小学校の和太鼓演奏
(2)荒浜小学校「ふるさと荒浜とともに」の発表
- 第2部(1)朗読劇「語り継ぐ震災の記憶」の上演
出演:若林演劇研究会 ギター:佐藤 正隆
- (2)合唱「花は咲く」宮城教育大学アカペラサークル『奏』

会場

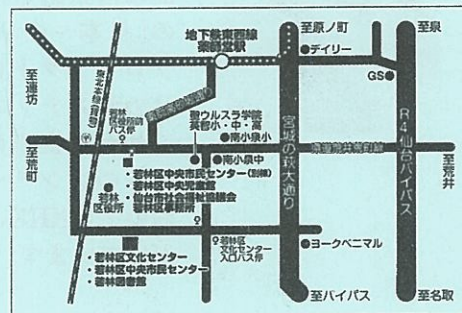
若林区文化センター ホール

仙台市若林区南小泉1-1-1

仙台市営バス若林区役所前バス停下車徒歩3分

地下鉄東西線薬師堂駅下車徒歩15分(ご来場は、公共交通機関をご利用ください)

入場無料(申込み不要、当日直接会場にお越しください。)



主催 / 仙台市若林区中央市民センター

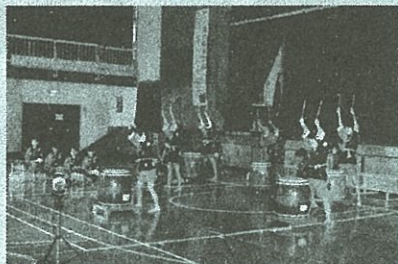
2011年3月11日の東日本大震災の発生から5年が経過しようとしています。

これまで、若林区中央市民センターでは、津波で被災された方々の体験を伝えていくために、2013年7月から11月にかけて13名の方から聞き取りを行い、「語り継ぐ震災の記憶」という冊子にまとめてきました。そして、この記録をもとに制作した朗読劇を昨年3月に開催された国連防災世界会議のパブリックフォーラムとして上演しました。

今回の催しでは、第1部として沿岸部で被災した東六郷小学校と荒浜小学校の児童の皆さんが、美しい田園に囲まれ豊かな水にも恵まれていたふるさとの姿を未来に語り継いでいく発表を行います。

さらに第2部では、震災の発生から5年というこの時期に合わせて、前回聞き取りを行った方々からのその後の状況について、2015年11月から12月にかけて改めてお話を伺った部分を加えた朗読劇を再演します。

【出演者プロフィール】



東六郷小学校

開校60周年を迎える平成28年度を最後に、六郷小学校との統合が決定し、東六郷小学校の伝統を地域に刻み伝える活動に力を入れています。津波に耐え、多くの方々からのご支援で蘇った「ひがろく」の和太鼓で子供たちが「新開演太鼓」「新黒潮舞太鼓」を力強く演奏します。



荒浜小学校

地域とともに育ってきた本校は、この春七郷小学校に統合され、142年の歴史に幕を下ろすことになりました。子供たちは、「ふるさと荒浜とともに」をテーマに、地域から学ぶ活動を続けてきました。3、4、6年生が、大好きなふるさと荒浜について学習した成果を発表します！



若林演劇研究会

2001年に発足した仙台市若林区を拠点に活動するアマチュア劇団。発足以来、地域にまつわる昔ばなしや伝説をもとに創作劇を発表し、この地域の魅力を発信し続けています。

会員は幅広い年代層で構成されており、世代を超えた交流の場にもなっています。今後も引き続き、老人福祉施設や児童館などでの出前公演を行い、より一層の地元再発見と地域密着を目指しています。



佐藤 正隆

1973年宮城県生まれ。3歳の頃より父と母の手ほどきを受けギターを始めました。2000年以降、キューバ、ドイツ、日本の国際ギターフェスティバルに参加。2003年にソロリサイタルを開催し、本格的に活動開始。2013年、国際交流基金主催の「日本～チリ、はるかな友に心寄せて」プロジェクトにおいて音楽を担当し、チリのサンチャゴなど2都市で公演。これまで仙台を拠点に数多くのソロ、アンサンブルのコンサートを開催。作曲の分野においてはNHK-AMラジオ番組音楽等も手がけています。



宮城教育大学アカベラサークル「奏(かなで)」

創設7年目。総勢100名を超えるサークル。多くの人たちに自分たちの音楽を届けることを目指し、大学祭やクリスマスライブなど、学内でのイベントはもちろんのこと、昨年からは小学校でのボランティアや街でのイベントなどにも積極的に参加しています。

■お問い合わせ: 仙台市若林区中央市民センター 〒984-0827 仙台市若林区南小泉1-1-1 電話022-282-1173

再生紙を使用しています。このチラシはリサイクルできますので、雑がみとして分別してください。